

平成 29 年度第 4 回愛媛県地域公共交通再編協議会 議事録

日 時 平成 30 年 3 月 22 日 (木) 13:15~14:45

場 所 松山市男女共同参画推進センター

COMS 5 階大会議室

1 開会あいさつ

事務局 : 資料を確認させていただく。進行は西本会長にお願いしたい。

西本会長 : 皆様、年度末のご多忙の時期にお集まりいただきありがとうございます。

早速議事に入らせていただくが、本協議会は公開で行うことをご了承願いたい。

本日は、まず、愛媛県地域公共交通網形成計画(案)について、2月22日~3月14日までの21日間、パブリック・コメントを実施したので、そこで寄せられた意見の報告とそれに対する皆様のご意見を承りたい。

その上で、本協議会として「愛媛県地域公共交通網形成計画(案)」を審議いただくので、よろしくをお願いしたい。

また、その後、網形成計画に位置付けた事業の推進について、事務局から来年度平成30年度の取組み予定を説明するので、こちらについても委員から意見を賜りたい。

では、事務局から「議事(1)愛媛県地域公共交通網形成計画の策定について」、説明をお願いします。

2 愛媛県地域公共交通網形成計画の策定について

事務局 : 【資料1】「愛媛県地域公共交通網形成計画(案)のパブリック・コメント結果」に基づき説明

西本会長 : パブリック・コメントの結果を見ると、いずれも、網形成計画(案)の記載内容や事業について修正・再検討を求められているものではないが、交通事業者や市町に対する意見もあるので、関係する分野の委員の意見を承りたい。

伊予鉄道 : 当社が運行している電車・バスの利用者は、ピーク時に比べ、電車は50%、バスは20%の利用と大きく減っている。こうした中で、利用者の交通手段となるべく、サービス向上宣言やチャレンジプロジェクト等を実施した。運賃施策は電車・バスを、共通の観点から総合的に実施しているところ。パブリック・コメントは、県民の声として、サービス向上に向けて反映していきたい。当社が取り組んでいるサービスのうち、「バスはいつ来るのか分からない」という意見に対して、平成17年にバスロケシステム108箇所を導入し、全路線の利用者の7割の方が利用できるバス停においてサービスを提供している状況となっている。さらに、平成28年には、スマホに対応したバスロケを全停留所に導入した。バスロケは、事業者の運行管理の面でも役立つものとなっている。運行中のバスの位置情報をリアルタイムに把握できるため、遅延がひどい場合には、バスの増発対応等を行っている。また、蓄積した運行データに基づいて、半年ごとにダイヤの見直し等のフィードバックも行っている。バスロケは、今後、多くの外国人利用者の方にも向けて、多言語対応を考え

ている。また、災害時にも対応できるよう、業務用の携帯だけではなく、無線でもやりとりできるようなシステムの導入を考えている。

宇和島自動車：バスと他交通機関との乗り継ぎについては、連携が取れていないと感じており、現場にも改善を図るよう伝えているところ。今年度、県の網形成計画が策定されたのを受けて、今後、公共交通機関との接続や自社の路線同士の接続等を見直したい。バスダイヤの見直しについては、同じ時間帯に同じ方面に走っているケースもある。特に、昼間の時間帯等は、ダイヤを調整することが可能と考えられるため、平準化等を検討していきたい。

大洲市：大洲市では、スクールバスの登下校時間帯に地域住民との混乗や登下校以外の車両の空き時間に一般向けの運行をしている。スクールバスの運行ルートは、生徒の居住地によって、毎年見直されることがあるため、教育委員会や PTA との調整が必要となる。こうした関係者と連携をとりながら進めていきたい。

西本会長：その他、意見はないか。それでは、パブリック・コメント結果については、今後の計画を推進する際の参考として、協議会全体で共有させていただく。

それでは、計画（案）については修正すべき点はなしとして、お手元の計画（案）をもって、本協議会は「愛媛県地域公共交通網形成計画」を承認することに異議はないか。

（委員より「異議なし」の発言あり）

なお、本日の承認を受けて、国への計画提出等の手続きを行うが、軽微な修正が生じた場合は、事務局に一任いただく。

3 網形成計画推進に向けた平成 30 年度の取組みについて

西本会長：続いて、「議事（2）網形成計画推進に向けた平成 30 年度の取組みについて」です。こちらについて、事務局の説明をお願いします。

事務局：【資料 2】「網形成計画推進に向けた平成 30 年度の取組みについて」に基づき説明

西本会長：ただいまの内容について、何か質問、意見はないか。

それでは、副会長の松村先生と、オブザーバーの四国運輸局交通企画課・小川課長から、これまでの協議会での議論も踏まえて、来年度以降の事業実施についてのご助言いただく。

松村副会長：個人的な意見は前回の協議会で発言した。良い計画とは、良いデータを集めるだけではなく、次の取り組みにつなげることができる計画であると考えている。そういった意味合いで、宇和島自動車のダイヤの見直しや、伊予鉄道の鉄道とバスの乗り継ぎ等への発言は、本計画策定の 1 つの成果の表れだと考えている。県の再編計画、それ以外の事業についても取り組みを進めていく意思が見られる。県の網形成計画は、県全域の計画としては、他県からも注目されている計画だと考えている。来年度以降の県や市町、事業者の取り組みも注目されている。今後策定される他県の計画にとっても、非常に良い事例となるため、来年度以降も関係者が連携して進めていただきたい。今後の取り組みに期待をしている。

四国運輸局：オブザーバーとして参加してきた。協議会やワーキンググループにおいて、活発な議論が行われたことに対し、運輸局からも感謝を申し上げる。運輸局にも、愛媛県の網形成計画の策定について、他県から内容照会を受けている。人の動きが広域となっており、長大なバス路線が多く、市町を跨ぐことも多い中、県が指揮をとって良い計画が策定されていると思う。計画を策定して終わりではなく、今後、事業を実施していくことを期待しており、現場レベルでも進めていただけるよう関係者が連携して取り組んでいただきたい。個人的な思いとしては、再編事業以外についても、協議会やワーキンググループで取り組み

の状況の情報共有が図られることは非常にすばらしいことである。PDCA サイクルをしっかりと回していくことが明記されていることについて非常に心強いと考えている。他地域では、計画を策定することで手一杯になっており、実施状況の共有等が図れない場合が多い。こういった観点からも県の取組みに期待したい。今後も運輸局としてバックアップしていきたい。

近藤委員 : パブリック・コメントに記載の「現状把握には会議員全員が実際に乗合バスに乗り、状況を把握していただきたい」との意見に共感をしている。先日、公共交通を利用して東京へ行ったが、都会で交通が発達している。それに比べて愛媛県では人口規模が小さく、公共交通利用者が少ない。これでは交通の継続的な運行は難しいと思う。本日、事業者から、乗り継ぎのためのダイヤの見直しなど心強い発言をいただいた。1つの交通手段で目的地に行けなくても、バスや電車を乗り継いで目的地に行けること、その他、タクシー等の様々な公共交通を上手く生活に取り入れて、利用していくことが利用者側には求められていると認識。事業者は、公共交通の将来を考えていると感じているため、利用者としては、今後も公共交通の利用を通じて応援していきたい。

西本会長 : 他に意見がないようなら、以上で、議事(2)を終了する。

4 その他

西本会長 : 最後の議事(3)「その他」だが、PR事項等はないか。

西本会長 : それでは、今年度の愛媛県地域公共交通網再編協議会の議事は以上で終了する。

委員におかれては、終始、熱心にご協議をいただいた。全国的に県全域で網形成計画の策定事例は少ない中、策定に至ったことに感謝する。また、委託事業者の日本工営には、貴重なデータを収集いただくとともに、スピード感を持って対応いただいたことに感謝する。地域公共交通の確保・維持は県としても重要な課題と認識しているので、市町や警察、国など行政関係者や交通事業者と緊密に連携して、この計画の具体化を図っていきたくので、引き続き協力をお願いします。

事務局 : 以上をもって、本日の愛媛県地域公共交通網再編協議会を閉会する。

以上